

## 2009 年度 KPOS 訪問記

九州大学大学院医学研究院整形外科

秋 山 美 緒

2009 年 12 月に松山にて行われた第 20 回日本小児整形外科学会において最優秀ポスター賞を頂き, TPOS-KPOS-JPOA Exchange Fellowship に選任され, 2010 年 10 月の韓国小児整形外科学会(KPOS)へ参加させていただきました. その 10 月 13 日から 16 日までのソウル訪問に関して報告いたします.

出発に先立て日本小児整形外科学会前国際委員長の亀ヶ谷真琴先生, および国際委員長の川端秀彦先生に Seoul National University の Tae-Joon Cho 先生と Yonsei University の Hyun Woo Kim 先生を紹介していただきました. 家庭の事情で韓国での長期滞在が困難であったにもかかわらず, 快く濃密なスケジュールを組んでいただき, 充実した韓国訪問をさせていただきました. さらに, 英語が不得手で女性であることをご配慮下さり, 事前に空港へ迎えに来て下さる女性の先生を紹介していただけたこと, 安心して日本を発つことが出来ました.

10 月 12 日正午に福岡空港を出発し, 約 1 時間の Flight で Incheon 空港に着きました. 入国審査を終えドキドキしながら到着ゲートに進むと, 「Dr. AKIYAMA」と書かれたボードを持った女性が出迎えてくれました. 事前に連絡を交わしたレジデント 8 年目の Dr. Sunyoung Joo です. ご自身の事を「old fashion」と称する知的な女性の運転で Seoul 市内の Yonsei 大学へ向かいました. 韓国のハイウェイの標識はハングル語表記しか無く, レンタカーを借りて観光するのは難しいなというのが韓国の第一印象でした. 車の中では Sunyoung 先生と整形外科の女医事情についてお話ししました. 韓国では整形外科の女性医師は国内全体で 25 名程度だそうで, 日本同様, 力仕事というイメージが強く女性医師が選択することは少ないそうです. 現在, 日本では女性の整形外科医が増えていること, 九州大学の医局内だけでも十数名いることを話すと驚いていました. 約 1 時間で Seoul 市内にある Yonsei 大学に到着しました. Yonsei 大学は 1885 年韓国で最初に設立された大学で, 山一つがその敷地でした(写真 1). 山全体がキャンパスであり, 大学本体, 大学病院, 附属機関もその山の一部にありました. そのような伝統のある大学の Guest Room に滞在



写真 1. YONSEI 大学の敷地の一部  
Severance 病院 VIP ルームより撮影



写真 2. Severance 子供病院の院内学級にて



写真 3. Severance 子供病院玄関にて。左より  
総師長, 筆者, 日本語がお上手な放射線技師長



写真 4. 夕食にて韓国風お粥

させて頂きました。部屋に荷物を置きほったのも束の間、すぐさま Yonsei 大学付属病院 (Severance Hospital)、および付属の子供病院 (Severance Children's Hospital) を施設見学させて頂きました。Severance 病院は 5 つの分院を同じ敷地内に持っていました。メインの建物は 2005 年に建て変わった直後でもとても大きく、きれいな建物です。子供病院の玄関には動くロボットが出迎えてくれ、各フロアには子供が喜びそうな装飾にあふれ大人の私でもワクワクするような病院でした (写真 2, 3)。さらに隣接する大学病院は有名な建築家によってデザインされていて大きなエントランスに地下 5 階まである駐車場、展望の良い VIP ルームまであり、その規模の大きさや充実した設備におどろかされました。VIP ルームには韓国の大統領や俳優ペ・ヨンジュンなどが滞在したこともあるそうで、VIP ルームと同じフロアに人間ドックが設けてありました。この日は、Dr. Hyun Woo Kim と Dr. Sunyoung Joo と共に大学の近くで韓国料理を頂きました (写真 4)。

10 月 13 日。この日の午前中には韓国滞在中、唯一観光させて頂きました。エスコート



写真 5. 昌徳宮にて、Dr. Yoon(左)と共に



写真 6. 症例検討会にて



写真 7. Yonsei 大学 Guest Room の朝食

して下さったのは、整形外科レジデント 2 年目の Dr. Yoon Ji Young でした。Yonsei 大学のレジデントはほとんど病院建物内の寮で暮らし 24 時間体勢の待機をしているそうです。日本のレジデントと同じくらい忙しい彼女はこの日も朝から緊急手術を終えて観光に連れて行ってくれました。午前中の 2 時間半という時間を使い、地下鉄に乗って昌徳宮へ行きました(写真 5)。韓国の寺院には

日本人観光客が多く、韓国にいることを忘れてしまいそうでしたが、一人では怖くて乗れない地下鉄や、通勤時間帯の街並みを味わうことが出来、貴重な体験となりました。午後からは、また地下鉄とバスを乗り継いで KPOS の会場、Grand Hilton へ向かいました。ホテルで昼食を取りスライドチェックを済ませるとすぐに症例検討会が始まりました。まず最初に留学していた先生の報告がありました。それに続き、私の DDH に関する演題と、National University of Singapore の James Hui 先生の Pelvic Osteotomies に関する演題、Washington University の Perry Schonecker 先生の Foot Deformity に関する講演を含む 24 題の発表がありました(写真 6)。頂いた抄録はほとんど韓国語で何に関する演題なのか分からず、不安と緊張でいっぱいでしたが、発表はほとんど英語で行われ、なんとか何を討論されるのかが解り、ほっとしました。それぞれの演題で活発な討論が行われていました。白熱するにつれ、英語の討論が韓国語に変わっていき、やはりどこの国でも母国語が一番なのかなと感じました。途中でコーヒーブレイクもあり、フロアでも活発な討論が繰り広げられていました。英語が不得手で緊張している私に沢山の先生方が話しかけて下

さり、日本でも韓国でも小児整形を専門とされている先生の優しさを実感しました。不安と緊張でいっぱい余裕のない私は KPOS ミーティングの風景をカメラに納めるのを忘れてしまいました。ミーティングが終わると KPOS メンバーの先生方と一緒に韓国焼肉を頂きました。ここでも、沢山の先生方に話しかけて頂きました。中でも Chonnam National University Hospital の Sung-Taek Jung 先生は以前、日本で暮らしていたこともあるらしく、少しだけ日本語でお話しして下さいました。また、Seoul National University の Yoo, Woo-Joon 先生と股関節の形状と歩容・可動域について英語でディスカッション出来たのは、私にとってとても楽しく、これからも研究と英会話を頑張ろうと思える出来事でした。

10月14日は第54回韓国整形外科学会に出席しました。前日に観光案内して下さいった Yoon 先生と共に今度はタクシーで会場へ向かいました。ここでも、私が驚いたのはタクシーのドアを自分で開けなければならないことです。ドアが開くのをじっと待っていた私を Yoon 先生は少しびっくりされていました。英語が不得手で日本ではドライバーがドアを開けてくれることをタクシー乗車中の時間ほとんどを使って説明しました。韓国整形外科学会は韓国の整形外科の学会で一番大きな学会と聞いていました。会場は全部で5つあり、所々に英語のセッションがありました。St. Vincent Medical Center の Dr. Thomas P. Schmalzried や Washington University の Perry Schonecker 先生のレクチャーや小児整形領域の英語や韓国語のセッションに参加しました。ランチの時間帯にランチョンセミナーがあると思っていると、セミナーはなく、ランチのお弁当とお味噌汁が配られました。中にはお刺身もあり、辛いソースをつけて食べるという不思議なスタイルで後ろの席の韓国の先生が他の国の方に「It's Japanese Style!」と紹介していて衝撃を受けました。夕方からは KPOS のコアメンバーの先生方、Washington University の Perry Schonecker 先生と中華料理を頂きました。ここでも緊張のあまり写真を取り損ねてしまいましたが、Perry Schonecker 先生の奥様や Seoul National University の Tae-Joon Cho 先生、京都府立医科大学の金先生がやさしくお話しして下さい、美味しい食事を楽しむことが出来ました。さらに、宿泊先の Yonsei 大学に戻ると前述の Yoon 先生が大学周囲の街に連れ出して下さいました。大学の周囲には22時まで開いているデパートや深夜まで営業している居酒屋、薬局などで明るい街でした。日本と同じように若者であふれていました。その中でもスーパーマーケットに連れて行って貰い地元の人に紛れてお買い物を楽しみました。

10月15日は滞在最終日。Yonsei 大学の Guest Room の朝食を堪能し(写真7)、朝から

学会会場へ向かい、英語のレクチャーを受け、合間にはレジデントの先生方とお茶をしながら整形外科事情についてお話を伺いました。日本では比較的若い関節症の患者さんには骨切り術を選択することが多いのですが、レジデントの先生方のお話では韓国では20代でも人工関節を選択することが多いとのことでした。その後、昼過ぎの飛行機の時間に会わせてシャトルバスで帰路に着きました。

今回の韓国訪問は多くの先生方とディスカッションを持つ機会を持たせていただき、大変貴重な体験となりました。家庭の事情で長期滞在が出来ず、医療の現場を見学することが出来なかったことがとても悔やまれますが、経験の浅い自分に国際的な経験をさせていただいたことをとてもありがたく思います。これから、研究・経験を積んでさらに発展していきたいと感じました。最後にこのような機会を与えて下さいました山本晴康前会長、亀ヶ谷真琴前国際委員長、川端秀彦国際委員長をはじめとする日本小児整形外科学会の先生方、関係者の皆様に心よりお礼を申し上げます。